
普遍の影 3

月島 真昼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普遍の影 3

【Nコード】

N9879H

【作者名】

月島 真昼

【あらすじ】

これは僕と幽霊級に影の薄い薫とぶちギレ暴力女こと高藤の日常なお話である。異端の影と普遍の影1、2を読んでないとわからない出来損ないのお話である。

「はいはい　メイド喫茶とかどう？」

「高藤がやると冥土喫茶になりそうだけだな」

僕は黒板に『冥土』という字を書いた。この小説がバトルモノなら背後に黒いオーラが立ち上ってるであろう視線で高藤に睨み付けられた。

こっから　　といひかなんたろう。こーいひ言葉遊びつて小説とかの中ではよく見るけど登場人物達は発音の違いだけでちゃんと気付けるのかな？　あいつらエスパーじゃね？

あと黒板の隅にエスパー　（スペシャルパーマ）　　って書いたやつ出てこい。（推定時刻は昨日の放課後）

どうでもいいけど推定時刻だけだとスゴく違和感があるなあ。前に付くのは“死亡”なのに……

……ダメだ。際限がない。脳内トリップのスイッチをOFFにしよう。　　ここまで約3秒

前置きが長くなり過ぎた気がするが僕はいま学級委員として文化祭の出し物を決める役目を任されていた。ちなみに学級委員には推薦で満場一致で可決された。“物怖じしないから”というのが理由だったが虐めの一環ではないだろうか？、と最初に僕を推薦したのが高藤だから邪推する。

左隣の今井 薫はやる気で生徒会に提出する紙の裏に何かを描き描きしてる。

こいつも学級委員だが、僕が虐めにあつた直後にスッ……と立候補した。一番後ろの席とはいえ教師と僕以外誰も彼女が手を挙げたことに気付かなかつたのはどういうことだろう？

あとそのあとに高藤に殴られたのはなんでだ？

……スイッチがOFFに成りきらない。なんとか現実には焦点を戻す。

「他に何か意見はありますか？」

挙手はない。ことなかれ主義者だらけの我がクラスは冥土（あえてこの漢字） 喫茶は遠慮したくても堂々と自分の意見を言い張る猛者は居ないらしい。というかそうでない女子数名が冥土喫茶に同調してやがる……

さて、どうしたモノか。

「アイスクリーム屋かなんかどうかな？」

学級委員の権限で勝手に無難なモノを書き出してみた。冥土喫茶一択なんて紛れもない死亡フラグだ。自分で提案したくせに過半数で可決したら「あんなの着れるか」と、僕が高藤に消されるパターンだ。間違いない。

そして投票が始まって、

アイスクリーム屋 10票

冥土喫茶 26票

……………冥土喫茶、圧勝

男子19名の中で僕以外が全員冥土喫茶、女子17の名中で悪乗りした8名が冥土喫茶に入れた。

ていうか提案者の高藤はアイスクリームの方に入れてる。そして男子、お前ら絶対女子のメイド服姿を見たいだけだろ?!

「というわけでうちのクラスの出し物は冥土（大事）喫茶に決まりました……」

無駄に盛大な拍手が主に男子から巻き起こった。

「とはいえ」

だけど僕はそういった雰囲気の水を注すのが得意中の得意なのであった。

「レンタルの冥土服（葬式みたいだ）ですらお金がかかります
その他にも飲食物も用意する必要があるので文化祭の予算額では
足りない可能性が高いです

会計とよく相談した上で不可能であればその場合は繰り上げで「
あうちのバイト先で多分メイド服、借してくれるよ」

おい、空気嫁。

「カラオケ屋なんだけど滅多に出ないし店長の趣味で4、5着あつて使ってないんだよね 文化祭の1〜2日程度なら多分借りれると思う」

……えーっと、誰か僕を助けてくれる人？

教室を見渡すが誰も僕の視線には答えてくれない。教師さえ日と見である。というか微妙にニヤニヤしている。まさかこのバカオヤジ、「女子高生のメイド服もえー」とか考えてんじゃないだろうな……？ おい、どうなんだ？ 神代 葉月

「冗談じゃない。客を高藤が皆殺しにしてほんとに冥土喫茶に早変わりするのが目に見えている。」

救援を求めて今井を見るが何故かご満悦そうな表情で、

「……………」

メイド服姿の、僕らしき生き物が紙の裏側に描かれていた。

……何の拷問？ この状況。

何か打開策を打ち出すために舌を回そうとした僕を無情にも終業のチャイムが遮った。

……………はあ

放課後、僕は高藤に呼び止められた。ほとんど全員が帰ってから高藤が握り締めた僕の制服の袖を放す。ちなみに残ってるのは今井と芦川っていう特に特徴のない女子。

僕はキラーT（たかとう） 細胞の存在を確信している。彼女はおそらく突然変異種なのだ。そうでなければただのクラスメイト

に対してここまで理不尽かつ凶暴な存在になれるはずがない。

「なんでメイド喫茶が可決するのよ?!」

と、予期した通り彼女は僕を蹴って来た。当然予測していたのだから僕はそれを華麗に避け、られなかった。鞭の如くしなる腰の入った蹴りが僕の尻に鮮やかなまでに直撃しました。あまりのことにわたしはとてもおどろきました、まる

冗談じゃなく3mほど身体がその場で飛び上がった気がした。自分で提案したんだろ、諸々の文句はその一閃で綺麗に僕の語彙能力から消し飛んで心の底で1バウンドして碎けた。心とか骨とかいろんなモノが折れて僕はその場にへたれこんだ。

いや 僕だしね、彼みたいに強くないのだよ。僕は。

……“彼”ならどうしただろうか。

「暴力反対……」

とりあえず僕は涙目でそう訴えてみることにした。しかしキラーT細胞（そういえば某漫画でグ〇メ細胞とかあったな）を有する“暴君（タイラントとルビを打ってみる）”高藤には 効果がないようだ

……ゴーストタイプなのは今井のほうだった気がするんだけど。

キラーT細胞（もしかしたら捕食して進化したりするのかな？こわっ）の力を存分に発揮する高藤は細菌扱いである僕に2撃目を加えようと踵を振り上げて、

……高藤さん、パンツ丸見えです。

急激に顔を真っ赤に染めてスカートごと足をはたき落とした。踵は僕の顔の数cm横に落ちた。地面が陥没してる。恐るべし、キラ―T細胞……

とりあえず攻撃は止ん「めごっぽ」頬骨に拳が降り下ろされた。僕の奇声についてはスルーを推奨する。

高藤はそのまま紅潮した頬を維持しながら教室の外へと逃げて行った。

……さて、

文化祭、どうなるのかねえ……？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9879h/>

普遍の影 3

2010年10月16日00時44分発行